



# さざなみ会発足 22周年記念発表会 民話の語りを子どもたちへ

去る2月25日タウンセンター  
いずみで、「さざなみ会民話の  
語り発表会」が開催されまし  
た。さざなみ会は、小田原周辺  
に伝わる民話を語り継ごうと



「今がゆえに、子どもがじかに語りを聞いたり、人に話せることは大切。これからも続けたい」と話す、さざなみ会会長の香川勝久さん

また、児童が語りを「聞く」だけでなく、児童自ら「語り聞かせに挑戦したい」という声が上がります。夏休みに語り部教室を開いて、さざなみキッズが誕生します。

結成されたグループで、現在会員は10人、近くの小学校や老人ホームを定期的に訪問して活動しています。2002年、当時の富水小学校の学校評議員でもあった香川さんが、校長先生にその活動を紹介すると、「ぜひ、子どもたちにも」と言われ、民話の語り聞かせが始まりました。小学校のカリキュラムの中にも位置づけられ、伝承遊びやおもちゃ作りも要望に応えてやってきました。

「嫁田の話」を語るさざなみ会の山崎時子さん  
＝城北タウンセンターいずみ(2024年2月25日)

さざなみ会 2001年シルバー大学卒業後結成。福祉施設やイベントで民話の語りを始める。2003年富水小学校児童に語り聞かせを始める中で、児童を語り部とする活動に発展。さざなみキッズとして地域に出て活動を開始。2014年に小田原市より、おだわら地域力市民力表彰を受賞する。

会場では、終始まちづくり委員会子どもサポート分科会のスタッフが付付や視聴覚機材の準備に当たってくれました。

さざなみ会が発足して22周年。今回の発表会では、会員が8人、キッズが6人の出演がありました。会場には50名の観客が集まりました。熱心に語りを聞いていました。昔話や民話には荒唐無稽な話もありますが、多様な生き方や価値観が描かれていて、生きるとは何かを学ぶのによい教材だと感じました。

教師陣は、「語り聞かせは絵はないんだけど、想像を膨らませて、すごく楽しむことができる」と子どもたちもよく感想をもらいますし、子どもたちにも貴重な体験ができています。みごとさざなみキッズの一員となった児童は「いろんな話がある中で、自分にぴったりの話を選んで、それを頑張って暗記して、話して、みんなに喜んでもらうところが楽しいです」と話しています。



「いたずらガツパ」加藤汐里さんと東海青波さん

富水小にある掲示板

「ねこの盆踊り」山田晴陽さんと細川陽帆さん